

第6学年 国語科学習指導案

期 日 平成23年9月30日(金) 6校時
授業学級 第6学年男子10名女子16名計26名
授業者 小室 圭稔
授業場所 6年教室

1. 単元名 五 自分の考えを明確に伝えよう 『平和』について考える
＜資料＞平和のとりでを築く

2. 単元について

(1) 教材について

本教材は、学習指導要領の国語科「A話すこと・聞くこと」領域の(1)イ「目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話すこと」、(エ)「話し手の意図をとらえながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること」、また、「B書くこと」領域の(1)イ「自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること」が学習の中心となる。

本単元は、「書くこと」と「話すこと・聞くこと」との複合単元となっている。

初めに学習者へ問題提起があり、それを受け、資料「平和のとりでを築く」を読む。この「平和のとりでを築く」を読んだ感想をきっかけに、「平和」に対する自分の考えをもつことになる。そして、この自分の考えが説得力をもつよう取材をし、取材したことを生かしながら意見文を書く。さらに、意見文をもとに、自分の考えを効果的に伝えるようなスピーチをする活動へとつながっていく。

有機的な一連の学習の流れの中で、ともすれば抽象的なレベルでしか考えることのない「平和」について、「自分にとっての平和とは何か」について、じっくりと考える機会としたい。人類にとっての課題を自分の課題として引き受け、社会的な問題を自分のこととして受け止め考える体験は、今後の児童にとって有意義なものになると考えられる。

(2) 児童について

説明的文章の学習として、5年生の「サクラソウとトラマルハナバチ」においては、植物と昆虫の共生関係を考えながら、文章全体の構成から要旨を読み取ることを学習してきた。「ニュース番組作りの現場から」では、段落相互の関係をつかみ要旨をまとめながら、ニュースの作り手の意図や願いを読み取る学習をしてきた。

また、6年生の「感情」「生き物はつながりの中に」では、筆者の考えを読み取り、それに対して自分の考えをもち、意見を表明する学習をしてきた。

本学級の児童は、学習課題に進んで取り組み、素直に学習する。友達と考えを交流し合うことも好きな児童が多い。しかし、文章や筆者の考えに対して自分なりの明確な考えをもち、発表したり文章化したりできる児童はあまり多くはない。

普段の学習では、ペアやグループでの話し合いを入れ、どの児童も自分の考えをもてるように指導してきた。考えに自信がもてず、全体での発言をためらう児童も、小グループであれば安心して考えを言い合い、互いに教え合ったり認め合ったりしながら、自分の考えを深めていこうとする態度が育ってきている。

(3) 指導について

本単元は、資料「平和のとりでを築く」を手がかりに、「平和について自分の考

えをもち、意見やスピーチにして発信する。」ということが中心となる。学習のゴールを明確に示し、常に見通しをもって学習を進めるようにする。

言葉や文に着目させながら、筆者の願いに迫る読み取りをもとに、児童それぞれが理解を深め、「平和」についての自分の願いを作ることが大事である。そのため、資料から筆者の願いをしっかりと読み取り、それに対する自分の考えをもつ時間を確保する。「平和」に対する一人ひとりの考えをもとに学び合うことによって、自分の考えがより深まり、意見文を書いたりスピーチをしたりする表現活動へも意欲的に取り組めると考えられる。また、戦争を、遠い世界のものとして客観的な立場でとらえてしまうのではなく、一人ひとりの心の中に戦争につながる心が見えること、同時に一人ひとりの心の中で平和を大切にしたい心が必要であることに気づかせながら、考えを深め表現活動に結び付けていきたい。

3. 単元の目標

- ◎「平和」をめぐる自分の意見が説得力をもつように具体例や資料を集め、意見を明確に伝えるために文章全体の構成の効果を考えることができる。
- ◎意見文をもとに、話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで意見を主張することができる。
- ◎話し手の意図をとらえ、自分の意見と比べながら聞き、助言や提案をすることができる。
- 書き言葉と話し言葉の違いに気づくことができる。

4. 評価規準

【国語への関心・意欲・態度】

- 明確な意見をもった文章を読み、自分の考えをまとめようとしている。

【書く能力】

- 自分の考えや意見とは異なる立場に立つ他者の存在を意識し、構成を工夫して書いている。〔(1) イ〕
- 情報収集の方法の幾つかを知り、用いている。〔(1) ア〕
- 注や引用などの情報を加えて、意見が説得力をもつように書いている。〔(1) エ〕
- 効果を意識して、引用や表現を工夫している。〔(1) オ〕

【話す・聞く能力】

- 事実と意見を区別したり、引用部分を明確にしたりして話している。〔(1) イ〕
- 自分の主張や根拠と対比して、話し手の意見を書いている。〔(1) エ〕

【読む能力】

- 文章を的確に読み取り、自分の考えを深める。〔(1) オ〕

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- 書き言葉と話し言葉の違いに気づいている。〔(1) イ (ア)〕
- 効果的な意見文やスピーチの構成を考えている。〔(1) イ (キ)〕

5. 単元の指導構想表・指導計画（全14時間）・・・別紙

6. 本時の授業

(1) 本時の目標

筆者の考えについて話し合い、「平和」について、自分の考えをまとめることがで

きる。

(2) 本時の指導について

本時では、前時の一人学びでまとめた児童の考えを一覧にして配布し、それをもとに考えを交流し合い、「平和」に関する考えを深めていく。本時の授業を行うに当たり、前時では、筆者の思いをとらえながら、最終段落の「戦争は人の心の中で生まれるものである」「人の心の中に平和のとりでを築く」に対する自分の考えをまとめている。それを受けて、本時では、友達の考えに対して質問をしたり、納得できる点を伝えたりしていく。自分の考えを述べる際には、その根拠となる言葉や文を明らかにしながら話すようにしたい。

研究主題に関わって、確かに読み取る力を身に付けさせるために、次のような工夫を行う。

○学び合い

〔学び合いの形態の工夫〕

学び合いを「全体→ペア・グループ→全体」という流れにする。発言を苦手とする児童も、全体で学び合いの様子をつかむことによって、その後のペアやグループでの交流を抵抗なく主体的に行うことが出来るようになる。そして、学び合いの最後として、考えの交流によって自分の考えが深まった点を全体で紹介し合い、まとめへとつなげていきたい。

さらに、学び合いでは、文章中の言葉に基づいて自分の経験を話す児童の考えを効果的に取り上げていく。それを生かし、終末では、自分の考えを深めたり広めたりし、自分の学習経験や知識、友達の考えなどと関連付けていく。

(3) 具体的評価規準

観点	十分満足	おおむね満足	努力を要する児童への支援
【読】「平和」について、自分の考えをまとめている。	読み取ったことを基に、自分の知識や経験、友達の考えなどと関連付けながら「平和」について自分の考えを書いている。	読み取ったことをもとに、「平和」について自分の考えを書いている。	最終段落の中からキーワードを選び、それについて自分の身の回りのことと関連させながら考えをまとめさせる。

(4) 展開

段階	学習内容・学習活動	重要語句・文	指導上の留意点・評価
導入・つかむ5分	1. 前時の学習内容を想起する。 2. 本時の学習課題を確認する。 筆者の思いをとらえ、「平和」について、自分の考えをまとめよう。		

<p>展開・深める</p> <p>25分</p>	<p>3. 「平和」について考えを交流する。</p> <p><学び合い> 学び合いの必要性のある場の設定</p> <p>(1) 前時の友達の考えに対する質問や意見をもつ。</p> <p>(2) 全体で、質問や意見を交流し合う。</p> <p>(3) 各自で考えを交流し合う。(ペア・グループ)</p> <p>(4) 交流し合ったことを、全体で発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・戦争は人の心の中で生まれるものである。 ・人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時にまとめた児童の考えを配布し、それに対する質問や意見を考える。 ・自分と同じ考えやなるほどと思った考えなどを発言させる。 ・全体では発言が難しい児童にも、主体的に考えを交流する場を確保する。 ・友達の考えと自分の考えとの共通点・相違点、友達の考えから発見できた点などをメモするようにする。 ・文章中の言葉に基づいて自分の経験を話す児童の考えも大切にするようにする。 ・抽象的な言葉しか浮かんでこない可能性があるので、出来る限り、自分が見聞きした身近な体験に引き付けて考えるようにする。 ・話し合っってはっきりしたことや友達の考えで参考になったものを発表したり、友達の考えを自分の言葉に置き換えて発表したりできるようにする。 ・身近な事例から、自分達の心にある「平和を守るための心」に気づかせ、表現につなげる。
<p>終末・まとめる</p> <p>15分</p>	<p>4. 学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習を振り返る。 <p>5. 次時の学習内容を確認する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・交流を通して自分の考えを深めることができたか、新しい気づきがあったか振り返る。 <p>【読】「平和」について、自分の考えをまとめている。</p>

<単元指導構想表・指導計画> (全14時間)

	1	2	3 (本時)	4	5	6	7
目標	資料「平和のとりでを築く」を読み、感想を持つことができる。学習課題を確認し、学習の流れを見通すことができる。	「平和のとりでを築く」を読み、筆者の思いをとらえる。	「平和」をテーマに話し合うことで、「平和」に関する考え方や見方を広げることができる。	意見文の例を参考に、意見を述べるのに効果的な内容や構成を知り、意見文の書き方を理解することができる。	考えたことをもとに、書きたいことの中心を「仮の要旨」としてまとめることができる。	「仮の要旨」の根拠となる事例や出来事等の書く事柄を調べ、引用箇所や出典を整理し、要旨を確定することができる。	確定した要旨を効果的に伝え、自分の考えを明確に表現できるような文章の構成を考えることができる。
課題	資料を読んで、感想を発表し、学習の流れを見通そう。	筆者の思いをとらえ、「平和」について、自分の考えをまとめよう。	筆者の思いをとらえ、「平和」について、自分の考えを深めよう。	自分の意見を述べる文章の書き方を知ろう。	意見文を通していちばん理解してもらいたい意見を「仮の要旨」として書きあげよう。	「仮の要旨」を読み手に理解させ説得力をもたせる具体例や資料を集めよう。	自分の意見が効果的に伝わる文章構成を考えよう。
一人学び	一人学びの仕方の明示 題名を手がかりに自分が想像したことと比べながら、感想を書く。	押さえない言葉や文の明確化 「平和」に対する自分の考えをまとめる。	/	一人学びの仕方を明示する 意見文の例についての感想や書き方のよかったところを書き出す。	押さえない言葉や文の明確化 自分がいちばん訴えたいことを、「仮の要旨」としてまとめる。	一人学びの仕方を明示する 新聞やインターネット、読み物などから、「仮の要旨」に説得力をもたせるための資料を集める。	押さえない言葉や文の明確化 段落のつながりを考えながら、文章全体の構成を考える。
学び合い	学び合いの形態の工夫 みんなで学習の進め方を確認し合う。	/	学び合いの形態の工夫 「平和」についてペアやグループで話し合い、考えを深める。	学び合いの形態の工夫 意見文の例に対する意見や感想を出し合い、意見文のよさをまとめていく。	学び合いの形態の工夫 自分が書いた要旨に、どのような反論が出されるか予想しながら、グループで話し合う。	/	学び合いが深まるような板書の工夫 児童が作ったカードを利用して、構成を考え合ったり、考えた構成を発表し合ったりする。
まとめ	感想	筆者の思いに対する自分の考え	筆者の思いに対する自分の考え	自分の意見文に生かしたい事柄	学びあい後の仮の要旨	集めた資料	自分の意見文の構成
評価基準	【関】学習課題を理解し、進んで「平和」について考えようとしている。	【読】平和に対する筆者の思いをとらえている。	【読】「平和」について話し合い、自分の考えをまとめている。	【言】説得力のある意見文の構成を理解している。	【書】「仮の要旨」をまとめている。	【書】資料を集め、要旨を確定している。	【書】意見を述べるのに効果的な構成を考えている。

	8	9	10	11	12	13	14
目標	意見文の例を参考にし、構成を工夫したり、効果的な資料を引用したりして、意見が明確に伝わる意見文を書き上げることができる。	友達の意見文に感想する表現の助言を伝えることができる。	意見文とスピーチの内容を比較することを通して、書き言葉と話し言葉の違いに気づくことができる。	考えたことや伝えたいことをもとに、話題を決め、集めた事例や資料を生かして、スピーチの内容をつくりあげることができる。	目的や意図に応じて、音声的に工夫をし、適切な言葉遣いで話す方法を理解できる。	自分の考えが効果的に伝わるように、話し方を工夫し、練習することができる。	話し言葉の特性を生かして、効果的なスピーチをすることができる。 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べながら考えをまとめることができる。
課題	各段落を具体的に記述し、意見文を完成させよう。	意見文が、説得力のあるものになっているかを読み合おう。	書き言葉と話し言葉のちがいを考え、意見文をスピーチに変える学習の見通しをもとう。	「平和」について、自分の考えを主張するスピーチのための準備をしよう。	「平和」についての自分の考えを伝える効果的なスピーチのしかたを考えよう。	意見を効果的に主張するスピーチのしかたに注意して、練習をしよう。	話し手が何を伝えたいかを考えながらスピーチを聞き、感想をまとめよう。
一人学び	一人学びの仕方を明示する 書く観点に注意しながら、意見文を書き上げる。	一人学びの仕方を明示する 自分が書いた文章を、観点に沿って読み直す。	一人学びの仕方を明示する 自分の考えを伝えるときの、意見文スピーチでの違いを考え、ノートに書き出す。	一人学びの仕方を明示する スピーチの構成と、準備するものを考え、ノートに書き出す。	一人学びの仕方を明示する スピーチをするときの工夫とその効果について、考えたことをノートにまとめる。	一人学びの仕方を明示する 聞き手を意識し、聞きやすいスピーチにするための練習をする。	一人学びの仕方を明示する 聞き手としての観点を考える。
学び合い		学び合う必要性のある場を設定 意見文を読み合い、感想や意見を交流し、助言をし合う。	学び合いの形態の工夫 考えたことを交流し合う。		学び合いの形態の工夫 考えたことをグループで報告し合い、スピーチで大切なことを話し合う。	学び合う必要性のある場を設定 スピーチを聞き合い、よりよいスピーチになるよう助言し合う。	学び合いの形態の工夫 スピーチを行う。感想、よかったところ、技術的なことなどを交流し合う。
まとめ	意見文	修正した意見文	スピーチに取り入れたところ	スピーチの準備	スピーチメモ	改善点を考えた練習	自分のスピーチの振り返り
評価規準	【書】引用、詳述・略述の区別等をしながら、分かりやすく記述している。	【話】友達の意見文に対する感想や表現の助言を伝えている。	【言】話し言葉と書き言葉の違いに気づいている。	【話】効果的なスピーチの構成や言葉の使い方を考えている。	【話】CDを聞いて、スピーチをするときの音声面での工夫を考えている。	【話】自分の考えが効果的に伝わるように、話し方を工夫し、練習している。	【話】効果的なスピーチをしたり、意図をとらえながら聞いたりしている。

(5) 板書計画

<p>平和のとりでを築く</p> <p>課題・筆者の思いをとらえ、「平和」について、自分の考えをまとめよう。</p>	<p>「人の心の中で生まれる戦争」</p> <ul style="list-style-type: none">・人の痛みが分からない心。・自分勝手な心。・自分のことしか考えない心。	<p>「人の心の中に平和のとりでを築く」</p> <ul style="list-style-type: none">・原子爆弾は作らないし、使わない。・だれとでも仲良くする。・思いやりをもって接する。	<ul style="list-style-type: none">・相手の気持ちや立場
	<ul style="list-style-type: none">・自分がされていやなことなのに、人にししてしまう。・けんかしても、自分は悪くないと思っ て謝らない。	<p>↓</p> <ul style="list-style-type: none">・人の命を一瞬にしてうばってしまう戦争は、絶対にしてはいけない。	<p>まとめ・自分の「平和」</p>